１１月４日

在シドニー総領事交流録　第１５回
第６３回日豪経済会議

今回は、１０月４日から６日に千葉県幕張市で開催された第６３回日豪経済会議に参加して参りましたので、プレイベントとして１０月２日に同県柏の葉で開催された豪日ビジネス・フォーラムの模様と併せて、ご報告します。

ご存知の方も多いと思いますが、日豪経済会議は、日豪経済界を代表する日本側の日豪ビジネス協力委員会（JABCC）と豪州側の豪日ビジネス協力委員会（AJBCC）が共同で１９６３年以来毎年開催しており、日豪で交互に開催しています。本年は日本開催の年にあたり、千葉の幕張メッセで、日豪経済界から７００名近い方々の参加を得て、開催されました。

また、今回は、AJBCC が主催する形で、日豪経済会議の２日前に柏の葉で、都市開発とイノベーションを議論するフォーラムが開催されました。こちらはプレイベントでしたが、日豪から１５０名程度の方々が参加されました。

この柏の葉、恥ずかしながら私は最近まで耳にしたことがなく、昨年１０月にパースで開催された第６２回日豪経済会議に次回会議のホスト地を代表して出席された熊谷千葉県知事が、帰路シドニーに立ち寄られた際に、その名前を聞いたのが初めてです。それは、成田国際空港を擁する千葉県の知事として、建設中の西シドニー国際空港（WSI）周辺施設を視察されたと伺い、私から、空港だけでなくその周辺も含めたエアロトロポリスという広大な地域の大規模開発に NSW 州が取り組んでいる旨申し上げたのを受け、熊谷知事から、柏の葉の都市開発が参考になるのではないかとのご示唆を頂いたときでした。

NSW 州は、WSI 近くのブラッドフィールドという場所に、キャンベラ以来百年ぶりの新都市を建設するとして、先端製造業研修施設（AMRF）をオープンさせるとともに、土地の区画整理を進め、WSI と繋がるメトロも建設中です。ただ、まだ広大なキャンバスが白地で残っている印象で、この意味で、米軍柏通信所が１９７９年に返還され、１９９１年に千葉大学が農場を建て（その後２００３年に環境健康フィールド科学センターに改組）、２０００年に東京大学が柏キャンパスを開設し、２００５年につくばエクスプレスが開業、その後に都市開発が急速に進んだという柏の葉の開発の歴史はブラッドフィールド開発の参考になるのではないかと思いました。

こうした問題意識から、ブラッドフィールド開発公社（BDA）の理事も務め、西シドニー開発についての広報・啓発に取組む西シドニー・リーダーシップ対話のクリストファー・ブラウン議長に相談して、このプレイベントで西シドニー開発計画について講演してもらいました。イベントでは参加者と意見交換もされ、手弁当での同議長の参加に感謝します。

イベントを通じて興味深く思ったのは、つくばエクスプレスの開業が開発の起爆剤だったとはいえ、それだけで開発が進んだ訳ではなく、行政・民間・大学が緊密に連携したことが非常に重要であったということでした。具体的には、２００６年に、行政・民間・大学が参画した、まちづくりの企画・調整機能の一部を担う、柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）が創られました。このセンターでは、地域の関係者である千葉県柏市、大学、民間企業、市民・NPO 等が参加し、柏の葉のポテンシャルを最大限に活かした先端的で自立した都市づくりを実践していくための国際キャンパスタウン構想を２００８年に策定。そして、２０１４年には「環境共生都市」「健康長寿都市」「新産業創造都市」の３本柱も明示、構想の実現を目指して、連携・協働を続けています。イベント参加者には、街の視察も用意されていて、近未来的な町並みからはインスピレーションを受けました。また、意外と重要と思ったのは、UDCK のすぐ横に、かけだし横丁なる飲み屋街があり、そこで人々が日々の仕事の垣根を超えて意見交換することで、面白いアイデアが生まれるとの説明でした。天邪鬼な私は、夜飲みながらの意見交換では、くだを巻くだけになるのではないかと思いましたが、案内役の方から、ここに住む方・働く方は問題意識を共有しているので、話題が嚙み合いやすいとのことで、とても感心しました。



柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）についての説明

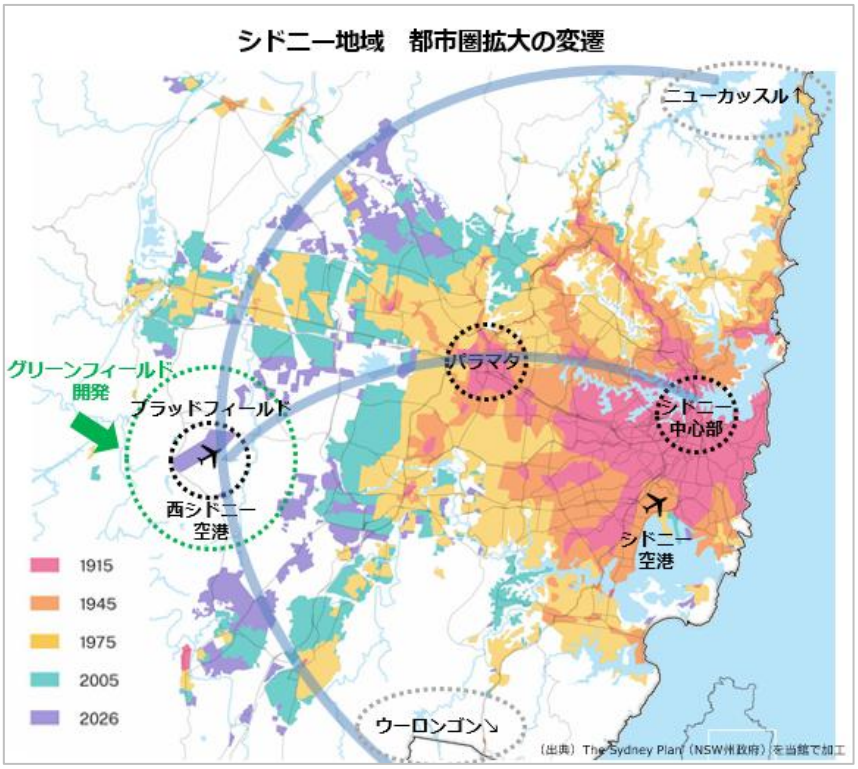


西シドニー・リーダーシップ対話
クリストファー・ブラウン議長

また、この日の夜は、明治記念館で日豪友好協力基本条約５０周年記念イベントが盛大に開催されました。在日オーストラリア・ニュージーランド商工会議所の主催によるもので、日豪そして NZ 関係者が多く出席され、会場は熱気に包まれていましたが、同日は日豪経済委員会広瀬委員長のお誕生日とのことで、お誕生日祝いを兼ねた盛大な一夜となりました。

さて、日豪経済会議本体ですが、４日夕方から歓迎レセプションが始まりました。
この会議の中身については、JABCC 並びに AJBCC のホームページで詳細が紹介されますので、ここで詳しく説明するのは控えますが、私の視点から面白かった場面を幾つかご紹介させていただきます。

まず、最初に、会議の前座として、日本側代表団に、管轄地域の動向について説明する機会を頂きました。予めNSW州政府の関係者にNSW州のセールスポイントを取材したところ、西シドニー開発と先端技術開発拠点が主なポイントとのことでしたので、NSW州については、それらの点を中心に説明しました。なお、この８月に、NSW州政府が２０４６年までのシドニー開発計画を描いた「シドニー・プラン」を発表しており、その中で、西シドニー空港周辺だけではなく、ニューカッスルとウーロンゴンを併せて開発を進めて行くとの考えも強調されていたので、ニューカッスルとウーロンゴンの投資先としての魅力も紹介しました。



「シドニー・プラン」をはじめとする都市開発に関する当館作成プレゼンテーション資料より

この後の歓迎レセプションでは、千葉県などがブースを出展し、県産品のPRを行っていました。この歓迎レセプションに参加した千葉県マスコットキャラクターのチーバくんが会場内を巡り、レセプションの盛り上げに汗をかいていました。また、千葉県は国内落花生の８割を生産する日本最大の生産県で、落花生だけでなく、ピーナッツ塩サブレは、とても美味しかったです。

改めて、千葉県におかれましては、このたびの豪雨により被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げるとともに、皆さまのご無事と一日も早い復旧をお祈りしております。



千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」

翌５日については、AJBCC・JABCC の次世代リーダーズによる「次の５０年に向けての日豪人材エコシステムの強化」について触れたいと思います。このリーダーズの問題意識は、両国関係がこれだけ緊密になり、多くの日本の若者が豪州、そしてまた多くの豪州の若者が日本に関心を持ち、ワーキングホリデーでお互いの国に滞在したり、大学等でお互いのことを勉強していながら、大学卒業後に、日豪関係に携わる仕事に就けている人が意外に少ないというものです。当館でも、毎年、JET プログラムの参加者を募集・選考して、日本に送り出し、日本で数年過ごして帰国した参加者の歓迎レセプションを開催していますが、そうした場で JET 経験者の状況を聞くと、日豪関係に携わる仕事に就いている方が多くなく、このリーダーズの問題意識には非常に共感を覚えました。同リーダーズは、日豪の企業にアンケートをして、それを取りまとめた結果を発表するとともに、その結果から、相手国の経験を活かせるポストを求職案内で明示的に示すこと、仕事や技術的能力を先ずは磨き、その上で言語・文化の強みを活かすこと、JET、文科省国費留学生、ニューコロンボ計画の参加者を企業のインターンシップや求人に繋げて行くこと、両国の間をより簡単に行き来できるキャリアの繋げ方を支援することが重要であると訴えていました。当館としても側面支援すべく、在シドニー日本人会、日本商工会の方々と意見交換を行っていきたいと思います。



AJBCC＆JABCC の次世代リーダーズ

そして夜は晩餐会です。千葉県各地の新鮮な食材を使った料理がサーブされましたが、この席で豪州の第２の国歌といわれるワルチング・マチルダが演奏され、参加者も合唱しました。曲の歌詞がメニュー裏側に載っていたのですが、この歌詞の内容は、ご存じの方お多いと思いますが、貧しい放浪者が羊泥棒をして、警官に追い詰められ、警察に投降することを潔しとせず、沼に飛び込んで自殺してしまうというストーリーです。これは、流刑者と官憲といった関係が色濃く残っている時代に、自分で道を切り開き、公的な権威に反発する、豪州開拓者の心情を表している面があるとも聞いたことがあったので、豪州のメイトシップを讃える粋な趣向と思いました。ただ、自分が２年前にシドニーに着任した際、英国の領事から、新型コロナの時に豪州人は、英国人と違い、自宅隔離をしっかり守っていたのには驚いたと言われたことを思い出し、必要な時には社会のルールをしっかり守るという、豪州人の一面もあることは申し添えておきたいと思います。この晩餐会では、銚子はね太鼓チームもステージに上り、力強い太鼓の演奏を披露、その演奏後、ステージ上の大きな太鼓の前に鈴木大使がサプライズで呼ばれ、撥（ばち）を渡されると、一息おいてから太鼓を力強く叩き、会場内に振動が伝わり、晩餐会を一層盛り上げていました。



鈴木大使の力強い太鼓演奏の様子

最終日の６日は、第６３回日豪経済会議の共同声明が広瀬委員長及びAJBCCのピーター・グレイ委員長から発表されました。それに続き、AJBCC委員長について、ピーター・グレイ委員長が翌７日をもって退任され、その後任にデブラ・ヘーゼンルトン豪州金融公社（Export Finance Australia）理事長が就かれることが発表されました。グレイ委員長の５年間のお勤めに心より敬意を表したいと思います。

これに続き、広瀬委員長が第６４回日豪経済会議のシドニー開催を正式に決定したことを発表しました。今回の参加者が約７００名だったので、来年のシドニーの会議ではこれを上回る参加者を期待すると述べられました。

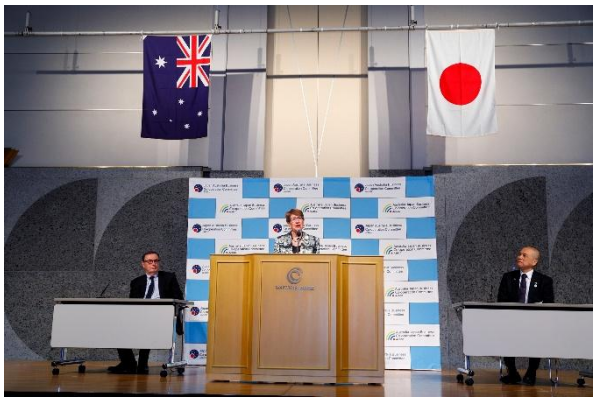
ビーズリー州総督は、本年が日豪友好基本協力条約署名５０周年、そして来年が日豪通商協定署名７０周年に当たることに触れらた上で、日本がNSW州にとっての最大の輸出国であり、日本とのビジネスがNSW州、延いては豪州の経済成長、イノヴェーションに大きく貢献してきたことは間違いなく、２４時間運営のＷＳＩ周辺に新たな街が建設されるに当たっては、日本のビジネス界はイノヴェーション、先端産業、経済成長に大きな役割を果たすと述べられ、次期ホストとしての名誉をお受けするとご挨拶を締め括りました。

そして、最後にグレイ委員長から、第６４回日豪経済会議が２０２７年１０月１７日にシドニーで開催される旨発表されるとともに、広瀬委員長からは、同年１０月１日からはラグ

ビーワールドカップ２０２７が豪州各地で開催されるため、会議開催日までのラグビーの盛り上がりが会議参加者を増やすことに繋がり、今回の参加者を上回る参加者となることを期待したい旨述べられ、本年の日豪経済会議は終了しました。



AJBCC ピーター・グレイ委員長（当時）（左）および
JABCC 広瀬道明委員長（右）



マーガレット・ビーズリーNSW 州総督（中央）

来年１０月にシドニーに来られる、日豪経済会議参加者の方々が、日豪経済関係の重要性を改めて確認するとともに、西シドニー国際空港及び周辺地域をはじめとするＮＳＷ州各地のダイナミズムを感じ、そして、会議の合間には日本ラグビー代表チーム・ブレイブ・ブロッサムズの活躍に元気付けられて、会議が大いに盛り上がることを心より祈念しています。



鈴木大使（左）、ビーズリーNSW 州総督（中央）と

（了）